

授業 コード	10418	科目名	手話演習	担当者		藤井 孝子・安達 篤美				
		副題	手話の世界へようこそ	開講期	後期	単位数	2	DP対応	1,3	
【授業概要】										
手話を通して、ろうあ者の生活、文化、歴史を学び、聴覚障害者への理解を深めるとともに、ノーマライゼーションの理念に基づき、共生生活を考える。										
【到達目標】										
手話で伝え合う楽しさを知り、ろう者と手話で簡単な日常会話ができる。 「聴覚障害」「聴覚障害者の生活」「関連する福祉制度」について説明できる。										
【授業方法・計画】										
アクティブラーニングを取り入れ、グループワークで映像的表現を柔軟に自発的に話し合い、発表しながら聴覚障害者講師の手話表現につなげる。 視覚言語である手話の魅力を体験するために、できるだけ日本語音声は省く。パワーポイントで映像を映し、イメージ的な手話表現を導く。 聴覚障害者講師との対話を中心に、講師から手話技術を学び取る。 聴覚障害者講師が自信の体験を語り、そこから聞こえない人の生活の不便や福祉制度等を学ぶ。										
第1回	自己紹介をしてみよう。(「聞こえない」とは)									
第2回	あいさつをしてみよう。(聴覚障害者とのコミュニケーション方法)									
第3回	手話がわからなかったとき。(手話を楽しく覚えよう)									
第4回	数字や時間の表現を覚えよう。(聞こえない人と働く)									
第5回	趣味のことを話そう。(地域の手話サークル、手話通訳について)									
第6回	行きたい場所の表現を覚えよう。(ろう教育、家族、子育て)									
第7回	病気やけがで困ったとき。(ろう者が生活で困ること)									
第8回	お天気と乗り物の手話を覚えよう。(耳のしくみと補聴器)									
第9回	買い物とお金の表現を覚えよう。(福祉制度)									
第10回	災害に関する手話を学ぼう。(ろう者と防災)									
第11回	復習 ~ (DVD 私の大切な家族)									
第12回	復習 ~									
第13回	復習 ~									
第14回	まとめと実技試験 (定期試験期間中に筆記試験を行います)									
【準備学習・復習】										
準備学習:聴覚障害者に関する本を読んだり、障害者福祉の制度に関心を持って調べる(100分)。 復習:習った手話は自分の生活の中で実践する(毎日15分)。										
【課題に対するフィードバックの方法】										
聴覚障害者講師との会話の中で、課題に対する理解を深めていく。 課題を授業中に実践しフィードバックしていく。										
【受講上のアドバイスおよび注意事項】										
手話は、目で聞く言語であるので、聴覚障害者講師の手話をしっかり目で覚える。 日本語と手話は全く文法の異なる言語。授業中はできるだけ視覚言語である手話で会話するよう努める。 聴覚障害者講師との手話は、とても魅力的である。授業中はスマホや私語をしない。手話の世界で一緒に学びましょう。										
成績評価方法	実技試験(40%)、筆記試験(30%)、および授業態度(30%)の総合的評価									
教科書	『今すぐはじめる手話テキスト ~聴さんと学ぼう!~』 一般社団法人全日本ろうあ連盟発行									
参考書	私たちの手話 手話辞典									
CB0165	授業に関連する実務経験			なし						